

建設業漫画の第2弾

「ただいま工事中!!」土木編完成



土木の魅力を物語で紹介している

建設業をPRするストーリー漫画の第2弾「ただいま工事中!!(土木工事編)」を得た。

高校生らに魅力PR

が完成した。好評だった建築工事編の続編。自然を相手に格闘するダイナミックな土木工事の魅力を紹介している。

「ただいま工事中!!(建築工事編)」は、北海道建設業協会と北海道商工会議所連合会、建設産業専門団体

北海道地区連合会の共同で、2014年10月に発刊。人材不足対策として全道の高校に配布した。

専門工事を含む建設業の役割を高校生の主人公による物語として紹介。作画や構成の完成度が高い評価を得た。

「ただいま工事中!!」の企画段階で作画の担当者が土木現場を訪れるなどして、忠実に描いた。ストーリー展開は「それぞれの団体担当者で協議し、事実上即した場面にこだわった」(札幌建協)という。高校生らに建設業の仕事を正しく理解してもらい、3Kのイメージが先行している建設業の素晴らしさを広める。

B6判の冊子で6万部を発行する。今回は高校や関係機関のほか公立図書館に配布。16年1月に道建設部が開く「建設業ふれあい展」など、業界をPRするイベントでも配る予定だ。

「ただいま工事中!!」(建設業協会)は、北海道建設業協会と北海道商工会議所連合会、建設産業専門団体

道建協がPR漫画冊子第2弾発刊

土木のフローを丁寧に解説

初めて図書館にも配布

一般社団法人北海道建設業協会(石田圭剛会長)は、PR漫画『たぐいまる工事 中々土木編』(A5判)を六万部発刊した。若年者雇用促進を目的としたもので、好評だった前年の建築

編に続く第二弾となる。今回は一般社団法人北海道測量設計業協会が新たに制作に加わった。内容は洪水対策の河川トンネル工事を題材に、測量・設計から施工に至る土木のフローを分かりやすく解説している。漫画は十一月上旬に道内の高校のほか、道民にも広く読んでもらおうと初めて図書館にも配布される。

道建協では昨年に行った専門工業団体との懇談会で、担い手の入職が業界の懸案になっているとの問題を共有。札幌商工会議所の話題提供もあって、漫画による情報発信を取り決め、第一弾として、「たぐいまる工事 中々土木編」を制作した。

建設・経済の三団体で八万部を発刊し、主に高校生一・二年生を対象に道内の高校に配布。総合建設業と専門工業業のかかわりや建築工事の工程を描いた内容で、業界をはじめ教育機関からも、「分かりやすく参考になる」と好評だった。今回の冊子は、その建築編に続き、土木工事を紹介する第二弾となる。道測量設計業協会が新たに発行者に加わった。



今回は北海道測量設計業協会が新たに制作に加わった

内容は前回の建築編で、建設業を志す学生の颯太(そうた)が主人公として登場する。物語は洪水対策のため、住宅周辺で行われている河川トンネル工事の現場見学会を訪問するところから始まる。そこで計画から測量・設計を経て工事に至る工程と、事業にかかわってくる様々な業務の重要性を知る。工事完成後、大雨警報が発令され、心配して近所の川を見に行く颯太。河川の拡張工事が功を奏し、何事もなく帰る。居合わせた女性技術者が颯太に言葉を投げかける。「想定外すら想定し、みんなの安全を守る。それが土木の仕事だ」。

企画・監修した一般社団法人札幌建設業協会は「漫画制作者が原稿にするのにゼネコンなどを取材した。業界・経済団体で内容やセリフに間違いがないか時間を割いて、チェックした」と説明。苦労して制作したPR漫画の活用については、「生徒の進路やキャリア教育に役立つものになれば」と期待している。

北海道建設業協会と北海道商工会議所連合会、建設産業専門団体北海道地区連合会、北海道測量設計業協会は、建設業の仕事内容や魅力を若い人に知ってもらおうと『ただいま工事中!!(土木工事編)』と題したストーリーマンガ冊子第2弾を発行した。写真。今回から新たに北海道測量設計業協会が加わり、物語は建築工事編に続き、洪水防止のために行う河川工事を題材に、設計段階から工事施工まで土木工事の目的や計画から

北海道建設協ら

全道高校生に配布 建設業PR



完成に至る工程を分かりやすく紹介している。マンガ作成は、札幌建設業協会が専門工事団体と共同で実施した工業高校生へのアンケートで、「建設業の情報が少ない」との回答が多かったのが発端。第2弾を発行することで若年者の入職を促し、

マンガ第2弾で紹介 土木工事を

人材の確保と育成を進める。建築工事、土木工事の2種類を発行し、各関係団体が連携する取り組みは全国でも例がない。

A5サイズの冊子6万部を印刷し、北海道内の全高校と専門学校に無償で配布する。また公立図書館でも閲覧できるように、北海道建設業協会などのホームページでも公開する。

札幌建設業協会は「より多くの市民・道民にも建設業に対する理解と関心を深めてもらい、若年者の人材確保につながれば」と話している。